

移住で感じた燕の住みやすさを 多くの人たちに伝えていきたい

昨年7月から地域おこし協力隊[※]として活動している森さん。燕市への移住や定住などを促進するための取り組みに携わっています。活動にあたっての今後の抱負などを伺いました。



もり みづき
森 美月さん(東京都出身・廿六木三区)
● 燕市地域おこし協力隊 (地域振興課)



▲ 燕の魅力
を発信してい
るインスタグ
ラム

▲ 移住者交流会で雪道について情報交換 (一番右が森さん)

「生まれも育ちも東京で、保育士として働いていたのですが、どこか新しい環境で何かに挑戦してみたいという思いを段々と抱くようになりました」
移住してからの仕事などについて調べていたところ、燕市の移住相談で地域おこし協力隊のことを知った森さん。自分自身の経験を生かして、移住を希望している人たちに地域の魅力を伝える活動ができるのではないかと考え、燕市へ移住してきました。

「今はインスタグラムで燕の魅力を発信したり、移住希望者のオンライン相談や移住者同士の交流会などを企画したりしています。移住から半年経ちますが、まだまだ燕に知人が少ない私にとって交流会は心強く感じる場です」
「燕市のことは東京で暮らしているときから知っていたそうです。」
「東京の台東区にあるかつば橋道具街に行くと、店内に「燕製品」と紹介されているキッチン用品が並んでいます。『ものづくりのまち・燕』が特別な感じに見えて、とても印象に残っています。包丁などを購入して使っていますが、使い勝手が良いですね」
これからの活動についての抱負をお聞きしました。

(注)市町村が都市部からの人材を受け入れ、「地域おこし協力隊」として委嘱します。一定期間、地域に居住し、住民支援をはじめ、地域ブランドや地場製品のPRなどの「地域協力活動」を行ってもらいながら、その地域への定住・定着を図る取り組みです。

紙上ブログ

燕市長 鈴木 力

明けましておめでとうございませう。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の法的措置づけが変わり、4年ぶりに本格再開できました。長いトンネルからようやく抜け出せる兆しが見えてきた年でした。

また第3次燕市総合計画がスタートする年でもありました。子育てサポーター、スポーツ大使、3人のPR大使を新たに任命したほか、10本の分野別の事業計画の策定作業を進めるなど、概ね順調に始動できたものと思っています。

今年も辰年、上り龍の如く上昇気流で、日本一輝くまち燕の実現に引き続き取り組んでまいります。

▲ こちらは有料広告です。

NCT スマホ利用料もおトクになります!

とセットなら

※スマホ利用料割引の適用には、インターネット・電話などの契約が必要となります。他にも、各種条件がございます。
※掲載されている会社名は各社の商標または登録商標です。★キャンペーン詳細は「おうち割光セット適用条件書」をご確認ください。

0120-080-009

電話受付時間 9:30~17:30 (ドコモ光タイプCに関しては10:00~19:00)
※上記時間以外・土日祝・お盆期間・年末年始は時間外受付に転送されます。

※この広報紙は、環境にやさしいペジタブル・オイル・インクを使用しています。